ひむか
メディア
アクション
HIMUKA MEDIA ACTION

ひむかかるた通信 第3号

団体は江平C

第7回大会 個人は河野さん（大宮）が頂点

第7回ひむかかるた大会が2月15日、宮崎公立大学体育館で開催された。宮崎市内の16小学校3保育園から約145人が参加し熱戦を展開。その結果、団体の部は江平Cチーム、個人の部は大宮小6年の河野はるかさんが優勝した。前大会より大幅に出場人数が増え、会場は熱気に包まれた。また、事前の準備、当日の運営は、同大学のサークル「ひむかメディアアクション」がサポート。審判だけでなく、司会役や読み手、集計作業までを手がけた。ここでは、畳の上で真剣勝負を繰り広げる、子ども達の様子を紹介したい。（所属と学年は大会当時）

1ヶ月の猛練習！強まった団結力

今回優勝を果たした江平小Cチームは、1月中旬から練習を開始。他校に遅れを取ることのないよう自宅に札を持ち帰り、札を覚えた。以前から昼休みに遊びとして取り組んでいた児童もいたという。

担当の教諭は「出場しない児童も出場選手のために練習につきあい、クラスの団結力が強まりました。自分に自信がない児童も、かるたとりが上達することを通して積極的になったように思います」と話す。

かるた活動を通してクラス内には多方面に変化が見られた。たとえば、掃除中の態度が良くなり、他のクラスの先生から褒められた児童がいたという。普段の振る舞いを変えるほどに真剣にかるたに向き合ったことが勝因の一つと言えるだろう。

（宮崎公立大学2年・上野麻衣）

圧倒的な集中力で優勝 決勝の接戦を制す

個人の部優勝は大宮小の河野はるかさん（6年）。大会の感想をたずねると、一言「疲れた」。それもそのはず、個人戦の決勝戦は見ているこちらまで熱くなるような緊迫した試合だったからだ。

練習期間は1ヶ月間。大会1週間前にはいっそう真剣に練習をしたという。校内のかるたクラブには所属しておらず、参加を決めたのは友達に誘われたから。かるたは友達と遊び程度にしていたくらいだと語っていた河野さんだが、大会本番では圧倒的な集中力を発揮して参加者、観客から注目を浴びていた。

（宮崎公立大学2年・富井桃子）

優勝した江平Cチーム。表彰式で賞状を受け取りました。

USTで絶賛配信中！！

ひむかかるた大会の様子は、動画共有サイト「Ustream（ユーストリーム）」でも配信。この通信と合わせて、子ども達の熱気をお伝えしています。大会に参加できなかった学校や、これからかるたを取り入れようとしている学校は必見！

ひむかコラム

大会を終えて

本年度の第七回大会は小学校16、保育園3の参加があり、盛況の内に大会を終えることが出来ました。開催に際しては、その運営をHMAのメンバーが担い、Ustreamで生中継を配信するなど、新しい試みも実施されました。

競技に参加した選手たちのレベルも、以前にも増して高いものになっていました。協会としては、日常的にかるたに取り組んでいただいている実践モデル校が上位を独占すると予想していましたが、フタを開けてみれば優勝したのは団体、個人ともに一般の参加校からの選手のみなさんでした。モデル校の生徒さんには申し訳ありませんが、協会としてはかるたの普及を実感する、うれしい誤算でした。

様々な面で新しい境地を開いた今大会。ひむかかるたは宮崎の活性化に向けて、さらに今後いっそうの未来を切り開いていきます。

ひむかかるた協会会長　新井克弥

皇寿園

3施設合同でかるた大会

子どもたちに負けぬ熱気、迫力

皇寿園で開かれたひむかかるた大会。子どもたちに負けぬ熱気です。

宮崎市の特別養護老人ホーム「皇寿園」で5月8日、ひむかかるた大会が開かれた。老人ホームを運営するグループ内の3施設から約30名が参加。101歳の女性が思わぬ活躍をするなど、子どもの大会に負けぬ熱気に包まれた。

今回は、社会福祉法人日向更正センターの皇寿園、明星園、デイサービスの3施設の合同大会。どの施設もレクリエーションの一環で日頃からかるたに親しんでいるだけあって、会場に集まってくる選手たちの表情はにこやか。強いチームの選手たちには貫禄を感じさせた。

101歳の女性が活躍

いざ試合が始まると、参加者は真剣そのもの。札が読み上げられる前には静かになり、まっすぐに札を見る姿は年齢を感じさせない。中でも101歳の女性が活躍。80代の"若造たち"を相手に札を5枚も勝ち取り、試合後のインタビューでは「最年長ですよ」の問いかけに「そうなの？ありがとうね」と軽やかに応えていた。

かっぽう着姿で司会をする小嶋幸恵さん。

特別ルールで大盛り上がり

この大会では役札の代わりに1枚5～10ポイントを付与する「ボーナス札」を設定したり、札にまつわるクイズを出したりと、楽しんでもらうための特別ルールを取り入れた。焼酎の札では「今までで一番おいしいお酒を飲んだときは？」の質問に女性は「晩酌」などと答え、会場を沸かせました。

今回の企画を担ったのは、宮崎公立大学OGで皇寿園職員の小嶋幸恵さん。当日は司会と読み手を務めた。小嶋さんは「こんなに盛り上がった行事はなかった。特別ルールを設けたのがよかったと思う。3施設合同で行うのは初めてで、職員としても勉強になった」と話していました。

次号（第4号）は10月中旬ごろの発行を予定しています。

ひむかかるた取材します！

「ひむかかるた通信」では、皆さまからの情報をお待ちしております。学校や企業、個人の活動、スタッフが取材に伺いますのでご連絡ください。

TEL：0985 - 20 - 4839

Mail：himukama@gmail.com

ひむかかるた通信 Topics

「大判かるた」完成！絵も文字もより見やすく

ひむかかるた協会では昨年7月から1年間、国際ロータリー財団の支援を受けて、老人ホームなど福祉施設への普及に取り組んでいます。このたび、施設職員や利用者の声を反映した「大判かるた」が完成しました。大きさは通常の2枚分。見やすさと、テーブルに並べても大きすぎないサイズになるよう配慮されています。

取り組みでは、高齢者を総合的に支援する地域包括支援センターを通じて、宮崎市内の施設に配布し、レクリエーションなどで利用していただいています。また、職員を対象にした説明会も開催しました。そうした中で、文字が小さくて読みにくい」「高齢者は絵で内容を判断することもあるので、絵札を大きくできないか」などの意見が頻出。見やすさと並べやすさが両立するサイズになるよう試作を繰り返し、ようやく5月に完成したのが、この「大判かるた」です。

皇寿園で開かれた大会は、こうした取り組みの集大成。テーブルには、大会1週間前にできたばかりの絵札が並べられました。小嶋さんは「並べたときの見栄えもよく、取りやすかった。利用者さんたちの取るスピードもいつもより速かったみたいです」と評価していました。

大判かるたはお年寄りにはもちろんですが、子どもたちへ向けてもおすすめです。大人数でかるたを囲んで遊ぶ場合や、子どもとお年寄りが一緒に遊ぶ交流活動など利用方法はさまざま。興味のある方は、ぜひ本協会にご連絡ください。